

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年通補版Ver.2 (BPV/BEI対応) | 使用評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010bei&bpi(v.2.11)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ららぽーと海老名	階数	地上6F
建設地	神奈川県海老名市扇町13番1号	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	20,000 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	物販店、飲食店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日	2015.11.20
敷地面積	32,942 m ²	作成者	大成建設株式会社一級建築士事務所
建築面積	29,232 m ²	確認日	2015.11.20
延床面積	121,127 m ²	確認者	大成建設株式会社一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
総合 海老名駅前の賑わいが地域全体へと広がるような、まちなかに開かれた商業施設づくりを目指します。様々なまちなみへの配慮を行い、まちづくり協議会との協議を進め、駅前再開発の中核施設としてふさわしい施設となるように計画を進めています。		建設工事過程において、工事工程に合わせた3R対策(Reduce/Reuse/Recycle)を推進し、廃棄物削減に努めます。今後の水質調査の結果等により、井水利用を検討しています。
Q1 室内環境 自然光を活かした、光あふれるモール空間としています。中央監視室による空調管理を行い、快適なショッピング空間を実現します。	Q2 サービス性能 売場の天井高さを十分に確保するとともに、テナントの入れ替え対応が容易なフレキシブルな建築・設備設計としています。維持管理面においても日常的なメンテナンスを容易にする設計としています。	Q3 室外環境(敷地内) 地区計画に基づき、駅前広場やプロムナードに開かれた施設計画としています。テラスやディスプレイスペースや、ショップファサードの工夫により、周辺環境とのつながりを重視した計画としています。
LR1 エネルギー トップライトなどの自然採光と、LED照明の利用により、電力消費量の削減を図っています。BEMSを採用し、実測値を元にした効率の良い運用改善対策を行っていきます。	LR2 資源・マテリアル 水資源の保護を図るために、各所に節水器具を採用しています。弊社「グリーン調達ガイドライン」に則り、建設工事時に環境負荷の小さい建材の調達を推進します。	LR3 敷地外環境 館内から発生する廃棄物の分別・減量化に努め、廃棄物の発生量を抑える対策を行っています。周辺交通計画に配慮した、駐車台数の確保、車両動線の計画を行っています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される